

第3回 横浜国際園芸博覧会具体化検討会 発言概要

開催日時：令和3年3月5日（金）15:00～17:00

場 所：三田共用会議所 1階講堂

- 詰まっている部分もあるが、具体的に詰まっているかという点、残念ながら3回目にしては不十分。地域の方、産業界の方にとって、自分たちが何を貢献しているかというのが見えないと、盛り上がりには欠けると推察される。今後、BIEやAIPHに対し、現場で具体的にどう進んでいるのかを、しっかり見せていく必要がある。
- 主催者展示では、ある程度具体的なものが出てきているが、気になるのが遺伝子組換え。あまりにこちらに振ると、全体の趣旨と違うことになる。
- 産業振興の側面が弱い。園芸博覧会は、緑産業の振興という側面もあり、フロリアード・フェンローでは、ビジネスミーティング等を継続してやっている。地域の方々に、日本の緑産業の方々に、早くどういうものを作って欲しいのか、海外に向けて日本国としてどういうことをやって欲しいのかを示せば、具体的に動くと思う。
- コンペティションに関し、園芸博の強みは6か月やることであり、花壇の長期化コンテスト等は是非やって欲しい。国際展示でありヨーロッパ各国は、しっかり見せてくれるけれども、開発途上国や東南アジア諸国は良いポテンシャルを持ちながら、表現しきれていない。それを引き出されるような園芸博になれば良い。
- 事業費がかなり厳しいのでは。実行的な予算にする必要がある。園芸博は、会場整備に時間がかかるもの。花博や、淡路花博、浜名湖等のスケジュールを確認いただきたい。
- 入場者について、有料入場者1000万人とあるが、経験からすると、この会場の場合、総入場者数から見てパークアンドライドやシャトルバス等が必要で、100億円程度必要。仮に、駅からのシャトルバス事業を交通事業者の自主事業にするにしても、交通事業者には赤字が出た場合などの費用補填を覚悟しておく必要がある。その分をすべて外部予算とするわけには行かない。また、駐車場借り上げや、新交通等も含めて、交通対策の妥当性については岸井委員に見て頂きたい。
- 有料1000万人と言いつつ、資料では1日上限の平日・休日の人数を積み上げると1000万人となり、総入場者数は1000万人ということになる。その場合、有料入場者数はそれを下回ると見込まれるので、その検証をお願いしたい。
- 個別の事業の検討を進めるに当たっては、農業・園芸・造園の学識者に入ってもらい、専門領域で検討いただく必要がある。また、例えば、これだけ多くの品種を集めたなど、市民の皆さん、産業界の皆さんにわかりやすいように。
- コンテストは元々屋内外の出展参加者が自らルールを決めて競技を行うものであり、この段階で主催予定者が深める必要はない。細かいが、「古典園芸植物」という用語は、

「伝統園芸植物」に変えていただきたい。

- 国に関わる意義として、会場と事業構造、運営費について曖昧にしたまま進むと、大阪のように途中で会場建設費が 600 億円増えるということになる。会場もピン止めされておらず、両省、横浜市を含めて、財政状況をふまえながら、園芸博覧会の本質を外すことなく、現実的な事業構造をつくってほしい。
- 経済団体の支援は非常に大事だが、浜名湖花博は 6 年前からボランティアリーダースクールをやっていた。ボランティアということで、会期中の運営のお手伝いという印象があるが、そうではなく、出展参加を中心に、園芸博覧会に関わる多方面の園芸・造園産業関係者、緑化活動者など、いろんな方が入って機運を盛り上げ、参加を醸成した。このような園芸博覧会としての本質的なやりかたを是非考えていただきたい。
- 「花の万博」では、「自然と人間との共生」がテーマであったが、今回の園芸博覧会では、開催理念として、「共生（きょうせい）」から「共生（ともうみ）」という理念はどうかと考える。国が開催する園芸博覧会とするならば、さらに両省でこのような環境下で開催する意義、これからの日本や日本人の立ち位置につながる哲学、理念を盛り込んでいただきたい。
- 報告書について文言の上では問題ないが、園芸、農業についてどう貢献できるか、というと、資料 6-2 の 15 ページ、花卉園芸の農業に関する新たな価値創造に向けた産業創出が、具体的に何なのかが見えない。また、例えばひたち海浜公園のネモフィラの丘のように、園芸博ということで大きな展示をやると観光的な大きな価値を生むかもしれない。コロナ禍に対応し、リアルとバーチャルをうまく組み合わせでどう展示していくのか、新しい IT の活用ができるのではないか。
- スマート農業に関し、アルメーレ園芸博でも論議されている。オランダの施設園芸はトップを走っているが、さらに発展するにはどうしていくのか、日本の農業がどう発展していくのかを示すことが期待されている。展示する材料について、模擬的な生産を見学の場所として見せていくのは意味があるのではないか。
- 横浜、神奈川は、明治に入って海外との取引の歴史があり、花きが輸出され、日本の園芸の発祥の地となった。横浜植木、サカタのタネがいろんな品種を作って海外に輸出してきた。そのような展示、地元の産業振興を具体的に書いて良いのではないか。
- 会場計画のイメージがまだ持てない。花博でも建築が印象を決めていく部分がある。木で作るのをルールにするとかできないか。ゼロカーボンをさらに踏み込んで、木も地元産とする。15 km 以内の木しか使わない等も考えられる。建築や構造物でもわかりやすく、ゼロカーボンの道を示せると、具体のイメージが湧くのでは。フェンス・塀も、木質的なものにしていくと、見た目の印象が全然かわってくる。
- 横浜市の会場計画について、テーマ、サブテーマと事業コンセプトが 6 つあって、ビレッジとあるが、直接繋がってなくて関係がとてもわかりづらい。ビレッジの 6 つが、サブテーマの上にある「幸せを創る明日の風景」に繋がると説明してもらった方がわか

りやすい。表現をわかりやすくして欲しい。

- それぞれのビレッジでやることを、会場全体でも貫徹する必要があるのでは。ビレッジで国際交流とか書いてあるが、世界に展開することについては書いていない。ゼロエミッションの話はビレッジだけでなく、園芸博全体のプロセスで、それに近いことをやらないといけない。
- コロナを1年以上経験し、社会が抜本的に変わろうとしているときに、果たしてこういう博覧会が社会の支持を受けるのかということについて、整理しないといけない。新しいライフスタイル・ワークスタイルが社会に急速に普及しようとしている中、ここに書いてある計画は、そうした社会の新しい動きと乖離しているのでは。
- ビレッジとあるが、何をしたいのか。20世紀はじめハワードは、田園都市論を展開する中で、都市と田園との結婚を提案したが、その先にある、新たな都市と農村の関係として、ビレッジを通じて何を提唱したいのか。新しいビジョンを提示すべき。
- **SDGs** の **Development** を見直すということへの答えがないと、**SDGs** に対する答えにならない。現在の計画は、旧来の **Development** 概念の域を出ていない。
- コロナで、差別や分断、格差が世界中で起こるのは間違いないが、そのような中、インクルーシブな社会をどうつくるか。人類共通の課題を盛り込み、そこをきちんと考えないと、本当の意味での世間の支持は得られないし、レガシーも残せない。ただの一時的なお祭り騒ぎに終わってしまう。
- 瀬谷について勉強会をしてきたが、水の循環、風の通り道というあたりを押さえて、それをベースに敷いてほしい。それができれば、環境のことが一気通貫で分かりやすくなる。
- どういう人たちが来るのか、コミュニティをどうつくるか。僕はそこに加わりたい。
- 今の日本はいろんなことをやってきているが、そこに精神の火が無い、作風が無いことが問題。細かい作風でいろんなことを積み上げていけるのではないか、そこはまだこれから。
- アートは作る段階から非常に良いコミュニケーションがとれる。その初動の段階から取り組んでいくことが重要。
- 地球環境（生命圏）の持続性に対応するために人々のライフスタイルや社会構造の大変容を起こさなければならないという共通認識に立脚すべき。そこに **Covid-19** が我々を襲い、同時に **75** 億の人々が行動変容を起こした事実はいずれの世界史にはない。改めて、人間は生物であり、生命圏に存在する生態系の一部である、という認識にたたねなければならない。
- いわゆる技術礼賛の文明博は終わると思う。横浜は、次の価値観、つまり生命圏の重要性・生き物の視点からの博覧会、という新たな視点に立脚すべき。
- 最近の **BS** 系の **TV** では、不思議と植物や緑が多いのが非常に示唆的であり、現代が象徴されていると思う。厳しい生存環境の中で知恵を総動員して遺伝子をつないでいる

ことがデザインに表れている。

- デジタル、つまりバーチャルな世界が広がれば広がるほど、リアルでシームレスな生き物の実態を意識せねばバランスが取れない。
- 未来に対して今までのフォアキャストの発想ではなく、生命圏を意識し、その限界と可能性を可視化するバックキャストに立った博覧会を考えるべき。
- 従来の博覧会は入場者数で成功・失敗を計ってきたが、そこも見直す必要がある。たとえば、この場に住んでもらうことが舞台・劇場であるとの発想で、その暮らしの姿をインタラクティブに SNS 等で世界に発信し、サブスクライブしたフォロワーの数を基準に考えるとといったこととか、共感した ESG 投資家からの投資を集めるといった観点での発想があっても良い。
- 東京タワーや大阪の太陽の塔のような目玉があると、それによって記憶を取り戻す。この博覧会は何をもって思い出すことになるのか。皆の心を捉えていくことが重要であり、そういう検討をして欲しい。
- いただいた意見による修正は、座長に一任いただき、取りまとめ、各委員にコミュニケーションを取る作業をやっていきたい（了承）。

以上